

#Report ヨッシーの実釣レポート

チャレンジの先に待つ歓喜！
次に味わうのは自分かも

●落とした。投げた。巻いた。さんざんやり尽くしたけど、自分としてはワラサ1本に終わった。海鳥が集まってかなりテンションが上がったタイミングもあったんだけど……。青物は気まぐれ。前日は爆釣していたのに翌日はサッパリ、なんてこともザラだ。オレたち取材班は強力な呪いにかかっているのか!? ちょうど谷間にばかり釣行してしまったようだ。こういう激シブ日に当たりながらも、超ラッキーなことに岡本さんのファイトをすぐ隣で見ることができた！ 上がったのは18キロのヒラマサ。自分のことのようにうれしかったなあ！ だれが釣っても船中が大盛り上がりになるのはルアー青物船な誘うと良型のヒラメが食ってきたらではの気持ちよさだね。

▶ 待望のワラサをキャッチしたヨッシー。岩瀬優船長と喜びを分かち合う

▲ ジギングで18キロのヒラマサをゲットした岡本昭彦さん

▲ 1投目からマハタを釣り上げた鹿島さん

▲ ワンピッチジャークで誘うジグにカンパチがヒット!

▲ スローなワンピッチジャークで誘うと良型のヒラメが食ってきたらではの気持ちよさだね。



#Solution 外房のルアー青物の解

正解=あきらめずに釣り続けること

●ジギングでは、ワンピッチジャークをベースにしたさまざまなアクションを試した。キャストは、投げ方向や巻きスピード、プラグの種類を替えるなど色々やってみた。でも、正解が見つからなかった、というのが正直なところだ。うまくいかなかったのは、魚のご機嫌としか……。ただ、岡本さんを始めとしてポツポツとは釣っている人がいるので、何かうまくいく要素があったはずだ。それがいったいなんなのを探したくて、今日も釣り人たちはルアー青物船に乗り込むんだよね……。

▲ たくさんの海鳥が集まってきた。近くに青物がいるのは間違いない。チャンス到来!



▲ 過去2回の釣行で最後までやり切った2人。色々な誘いを試したがお手上げた



▲ ネットインした瞬間、ガッツポーズするヨッシー

★ 少ないチャンスをモノにしたヨッシー。値千金の1本、この重量感が心地いい

#船宿インフォメーション

外房御宿 岩和港 長栄丸

☎090-1124-2150
(詳細は巻末の情報欄参照)

- 料金=ルアー青物予約乗合午前船1万円1000円、午後船1万円、一日通し2万円(水付き)、レンタルタックル3000円
- 備考=午前船5時半、午後船12時15分出船、第1 & 3土曜日定休



▲ ミヨシとトモはゆったりとしたスペースがあり、アンダーハンドでキャストしやすい



▲ 全力でサポートしてくれる岩瀬優船長(中央)

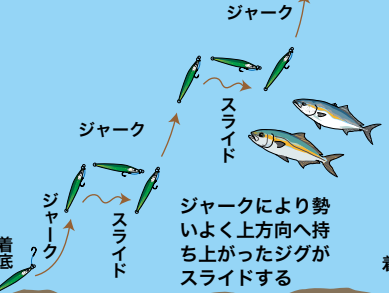
● 激シブな状況でも、船長が明るければ釣行は楽しい! 岩瀬優船長はそのことを改めて教えてくれた。笑顔が絶えず、とにかく楽しく釣りができた。操船もアドバイスも的確かついい。なにしろ名前のおりに優しいから、「もっと聞かせて!!」と思うんだよね(笑)。初めて挑戦する方には断然オススメできる……けど、文中にも書いたようにある程度の経験は必要なのがルアー青物。自分のスキルが心配なら、電話して聞いてみるなど、「釣ってほしい」気持ちがあふれ出ている船長だから、いいアドバイスをしてくれるはずだ。

ジギングの基本ジャークパターン

【ワンピッチジャーク】



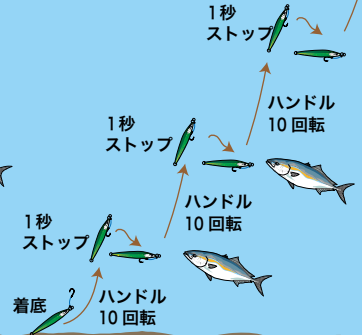
竿をシャクリ上げ、穂先を下げながらリールのハンドルを1回転させる



【ストップ&ゴー】



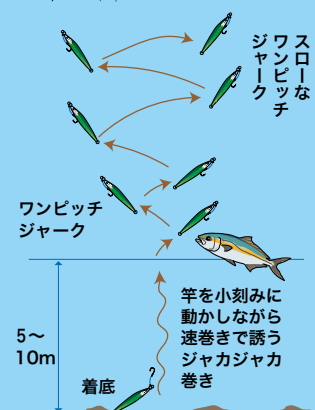
リールのハンドルを素早く10回転させて魚に追わせたら、1秒止めて食わせの間を入れる



【コンビネーションジャーク】



色いろなジャークを組み合わせる



#Howto 先生が教える基本釣法

基本を身に付けてから
応用に挑戦しよう!

●ジギングはワンピッチジャークが基本。リールを回さずに竿をシャクリ上げ、竿先を下げる間にリールを1回転させる。リズムカルにこなせるようになったら、スピードに緩急をつけたり、シャクリ幅を広くするなど、さまざまなアクションを試してみよう。魚にじっくりとジグを見せるスロー、竿先をしっかり下げてジグをピュンピュンと飛ばすやり方など、周りの人たちのマネから始めればOKだ。キャストはアンダーハンドでプラグを投げ、大きく竿先で払うようにしながら引いてくる。アンダーハンドでのキャストは、揺れる船上ではなかなか難しい。安全が確保できる場所ですっきり練習しておこう!

#Notice 生徒なりのお気付きポイント

いつか大物を得るために
ムダなことなんかない

●のべ3日の釣行でアタリもなかったが、実はかなり充実していた。不器用な自分でも回数を重ねるうちにジギングやキャストが上達してきた、という手応えを得られたからだ。船長の状況説明アナウンスの理解度も増したように思う。いつかズドンとやってくる大物のために、ムダなんかさっさと一切ない。



▲ 魚の頭をこちらへ向かせたらリールを巻いて寄せてくる



▲ 魚は船べりを見ると驚いて再び走り出すので止まるまで待つ



▲ 魚を寄せて、頭からタモに誘導して取り込んでもらう

フローティング
ペンシルの操作法



▲ ロッドを水平に構え振り下ろし、元に戻すとフローティングペンシルが潜り、アクションしながら浮上する

#Advice SLJからのステップアップ

● ハードルの高さが否めないルアー青物だけど、まずは今流行のSLJ(スーパーライトジギング)から始めるのがオススメだ。ジグもタックルもライトながら、ジギングの基本動作であるジャーク(シャクリ)や、アンダーハンドキャストを覚えられる。SLJで経験を重ねてからルアー青物に挑戦するのが最良の道筋だと思うよ!



▲ ジャークやキャストのやり方はSLJもほぼ同じ

は、150グラム前後のジグをシャクリ続け、15センチ前後のプラグを投げ続け、肩や足腰に疲労をため込んで、完全オチコである。何年もかけてようやくヒラマサを釣る人も少なくないから、「のべ3日」などまだまだ序の口だ。ルアー青物は、決してラクな釣りではない。各船ともブログなどであれば、「明日も出船、チャレンジャー募集中!」という言葉を使っているが、これは文字どおり純粋にチャレンジである。岡本さんが釣った18キロのような、あるいはもっとデカイヤツが釣れるかもしれない。あの大物のためには、時間も労苦もコストも惜しまない。ルアー青物に魅せられるのは、そういったロマンチストたちだ。釣りは、釣りである。どんな釣りにも優劣や貴賤はない。ルアー青物はハードルが高い釣りではあるけれど、だからと言ってエライわけじゃない。岩瀬優船長はその名のとおりとても優しく、初めてルアー青物に挑戦するなら長栄丸は間違いなくオススメの船だ。だが、狙い獲物に対して真摯にチャレンジし、それをキツリと釣り上げるための準備を考えると、どうしてもハードルが上がってしまうだけのことだ。「この3日間、最高だったよ!」とヨッシーは笑った。岡本さんの釣った18キロのヒラマサも、ヨッシーが釣った1本のワラサも、等しくチャレンジの成果なのだ。